

いとい

学校だより

平成29年度 第2号
H29.4.25
糸井小学校
72-3912

未来にはばたく糸井の子ども

- ・自分でよく考える子ども
- ・やさしい心をもつ子ども
- ・正しいことをやりぬく子ども
- ・じょうぶな体をつくる子ども

5つの重点目標

校長 澤出 安男

新学期がスタートして、1ヶ月ほど経ちましたが、教室では、子どもたちが先生や友達の話に耳を傾け、落ち着いて学習に取り組んでいます。

入学した1年生も、少しずつ学校生活を身に付け、毎日、元気に登校しています。24日(月)からは、家庭訪問週間が始まりましたが、家庭訪問は、家庭と学校が互いに子育ての理解を深める絶好の機会です。期間は、5月2日(火)までとなっています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、4月当初の第1号の学校だよりで、今年度の重点についてお知らせしましたが、今回は、少し詳しく説明させていただきます。

★★今年度の5つの重点★★

- ◎漢字やことばのきまりがわかり、表現を工夫して、文に表すことができる。
- ◎問題の意味を理解し、確実な計算によって問題を解くことができる。
- ◎自分から元気にあいさつができる。
- ◎自分の体の状態を知り、日常的に体をきたえる。
- ◎自分の安全は自分で守ることができる。(特に、自転車の安全な乗り方)

過日、今年度の本校の研究を進めるにあたり、職員による研究協議がありました。4月に異動した校長としては、本校の研究が何より、子どもの実態を出発点として、授業改善等の取組について、真摯に向き合った研究を行っていることにうれしさを覚えました。

本校は、『思いや考えを伝え合う子の育成を目指して』をテーマに、国語科を窓口の研究を進めています。国語力は、各教科の学習の基礎となるだけでなく、ま

すます進む情報化社会の中で、課題を解決するため、大切な力となっています。

研究は「読むこと」の活動を通して、テーマに迫る取組を進めますが、本校の児童の実態として、「漢字」を書いたり、「言葉」を理解したりする、語彙力に課題があり、文章を正しく理解したり、表現したりすることに影響しているということがあります。

研究は、授業改善を中心にしながらも、この語彙力を高める取組も両輪として研究実践を進めてまいります。

次は、2つ目の重点の計算力についてです。計算力は、応用問題を解く、基礎的な力となります。考えがあっても、計算力がなければ、正しい答えを導くことはできません。小学校の段階では、整数・小数・分数の四則計算を身に付ける計画となっていますが、本校では、この計算を一人一人が「確実」にできることを大切に考えています。子どもは、やり方が分かれば、自分でできる計算は、好きで取り組みます。

各ご家庭においては、学校生活の支えとなる生活習慣に気を配り、読書や家庭学習の取組を進めていただきたいと思います。



子どもを伸ばし、心を育てるためには、何よりも「自信」をつけさせてあげることが大切です。そのためには、子どもの姿をよく見つめ、どんな小さなよさもほめて認めてあげることです。「自信」をつける言葉のプレゼントを家庭でもお願いします。

《おはなしオルゴール会の皆さんによるストーリーテリング》

ストーリーテリングは、語り手が直接、自分の言葉で



お話を語ることから、読み聞かせとは違う味わいがあります。21日(金)、今年も会の皆さんが来校し、楽しませてくれました。